**神経内分泌腫瘍（NET）診療について**

神経内分泌腫瘍（NET・ネット）は、神経内分泌細胞からできる「できもの（腫瘍）」です。これらの細胞は神経とホルモン産生などに関係していることが知られています。

NETはさまざまな悪性度を示す腫瘍が含まれるので、比較的早期に発見される場合や、全身の臓器に転移した状態で発見される場合があります。基本的な治療は手術による切除や胃カメラ・大腸カメラを用いた切除（内視鏡治療）ですが、病状が進行している場合、また手術後に再発している場合は、抗がん剤やそれに準じる薬を用いた薬物療法や放射線療法などを用いて治療を行うことになります。

NETはこのように様々な種類の治療を必要とする腫瘍であり、内科・外科・放射線治療科などいろいろな診療科の協力が、ベストな治療をご提供するのに必要です。当院では十分な診療科の協力体制があるだけではなく、ソマトスタチン受容体シンチ検査（オクトレオスキャン）や、放射線療法の一種であるペプチド受容体放射性核種療法（ルタテラ）という新しい治療も実施可能です。

当科ではNETに対する検査から、外科・放射線科や放射線治療科など他診療科への紹介、薬物療法に至るまで、一貫した検査、治療をご提供いたします。

（受診方法）
<https://www.hosp.omu.ac.jp/outpatient/syoshin/syoshin.html>

病院代表 電話番号：06-6645-2121

